

府中がんケアを考える会通信 第23号  
2015/6/22



「府中がんケアを考える会」の総会を終えて  
府中がんケアを考える会・会報をお届けします。

会長 駒ヶ嶺 泰秀

昨今、日本の四季が変わってしまったのではないかとよく言われております。

春と秋が非常に短くなり、  
私たちが驚かせ嘆かせております。

桜の花が咲いている中に、  
もう夏の猛烈な太陽、5月の  
内に7月の猛暑です。

そんな中「府中がんケアを  
考える会」の会員の皆様いか  
がお過ごしでいらっしゃいます  
か。お伺い申し上げます。



過ぐる5月17日(日)第14回総会を無事終えることが出来ましたことをまずはお知らせいたします。  
新年度に向けての案件がすべて承認され、活動を開始いたします。

提案された意見で「役員と一般会員の間が離れているのではないかと、いろいろな事をやってそれにどんどん参加してもらったらどうか。」というものがありました。

新聞、雑誌、週刊誌等には毎回「がん」のことが取り上げられています。また書店に行きますと単行本が溢れています。「がん」になる前から「がん」に対する正しい知識を持っていることが本当に大切なことです。二人にひとりが「がんになるという時代なのですから。

ある高名な「がん」治療のお医者さんは中学校か高校での授業に講座を取り入れるべきだ、と主張しているくらいです。がんに対しある程度の知識があればいざというときに必ず役に立ちます。緩和施設の検討とともに、がんやがん治療に対する知識の普及も当会の課題かと存じます。

新年度は会員の皆様の参加もお願いし、さらに府中市、および周辺での活動を進めます。

## 府中ホスピスを考える会 第14回定期総会報告

日時：平成26年5月17日 午後1時30分

場所：ルミエール府中 講習会議室

記念講演 柴田 三奈子さん(山の上ナースステーション・所長)

定期総会 開会挨拶 駒ヶ嶺会長

## 1) 議長選出

窪田副会長を指名

会員総数86名出席27名委任状32名で、規約により総会は成立しています。



## 2) 開会挨拶(駒ヶ嶺会長)

会員は少し減っています。亡くなられた方、転居された方が増えています。

患者会はだんだん参加される方が多くなっています。

三鷹の方からも電話がありました。少しずつでもそのような方の心のケアになればこの会の存在意義は大きいと思います。これからも絶望しないで頑張っていけたらと思います。

## 2) 第1号議案 平成26年(2014年)度事業報告(市原役員)

ホスピスだけでなく広くがんケアを考えるということを活動の理念として、動き出しました。

緩和ケア、ホスピスケアを提供する機関(施設・住宅)の一覧表を作成しました。

アパート形式、あるいは小規模のホスピスケア提供施設の調査については本年3月「サポートハウス山の上」を見学しました。

患者会を10回開催し、延50人の参加を頂きました。

講演会を2回開催しました。通信を4回発行しました。

療養相談を随時行いました。(患者会、府中ボランティア祭り)

役員・会員の増強にはいたりませんでした。

府中ボランティア祭りに参加しました。

※ 承認



## 3) 第2号議案 平成26年(2014年)度会計報告(宇田会計・別紙記載)

監査報告(稲津臨時会計監査)

※ 承認



## 4) 第3号議案 役員選出(駒ヶ嶺会長、別紙掲載)

※ 承認

## 5) 第4号議案 平成27年(2015年)度事業方針(駒ヶ嶺会長)

緩和ケア・ホスピスケアを提供する機関の情報収集と提供を引き続き行います。

施設の調査、事業計画作成を行います。

がんについての学習会、講演会、見学会を行います。

会報を発行し、ホームページを作成します。

患者会を今年度11回開催し、療養相談を実施します。

講演会、学習会を2回行います。

役員会を増強し、関連する団体と協力します。

※ 承認

## 7) 第6号議案 平成27年(2015年)度予算案(宇田会計)

質問 会員は87名とあるが予算案では57名となっている。今年度は70名となっているがこの見込みについては？

会長答弁 会員は86名だが会費を納めていただいていない方がいる。会費を納めている方を予算に入れて計算しています。

質問 何年も会費を払わない人はどうするのか。

会計答弁 3年以上未納の方には会報等は送っていません。

※ 承認



## 8) 活動方針案〈具体的な活動〉(武智役員)

緩和ケア・ホスピスケアの作成、市内の在宅ケアの施設については今年度作成。

見学会、調査については随時報告します。

施設を作る場合、具体的に事業計画を立てた場合どうなるのか、お金の問題も含め勉強会を進めます。

患者会を11回進めます。講演会、学習会を秋に行います。

ホームページを作成します。会報だけでは情報が伝わりにくい。

療養相談を行います。患者会の参加者からお願いします。

周りとの運動と連携したい。

質問 緩和ケア、ホスピスケアという言葉についてですが、がんで余命を宣告された、もしくは、余った人生を考えなさいよ、ということを経験していかうとするのが会の意味なのでしょうか。

それとも、最近緩和ケアというのは「がんですよ」と告げられた初期の段階から受けられます、心理的、身体的、社会的に苦痛を取り除いて、その人らしく生きていける、ということを支援し、早期から緩和ケアが受けられるし、受けるべきものだと言われています。

そう考えると会の方針は、ホスピスを造りましょう、終末期を最善のものにしましょう、とすることに重きを置く会なのかな、と気になります。若い方ががんを患う方、子どもを抱えどうしようかという方に添えられるような方針がないのかな、と思います。

会長答弁 私ががんですよ、と告げられたとき、ああ死ぬ病気だな、と考えましたが、緩和ケアはがんと告げられたときから始まります。

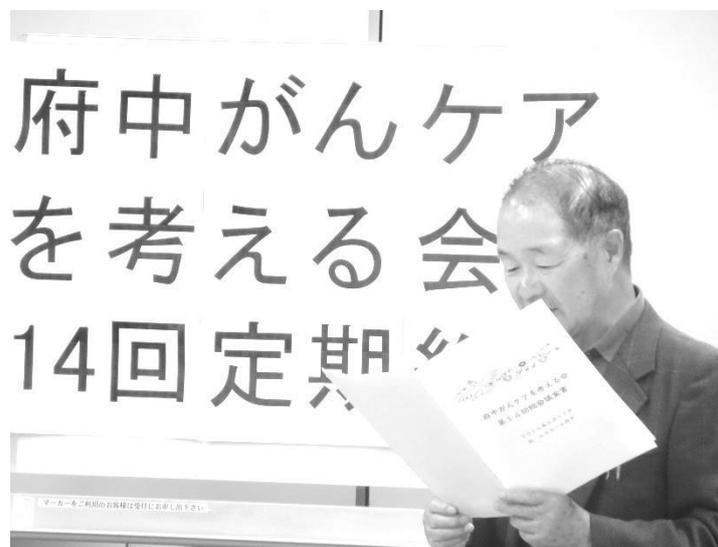
市原役員 当初はホスピスを考えましたが、緩和ケアは、がんですと宣告を受けた時点から始まる、と言われるようになり、私たちも考えを変えなければと話し、がんケア全体を昨年からは運動にしてきました。患者、ご家族の方全体を支えていけるような会として成長していきたい。

患者会も増えているが、私たちももっと考えて発展させたいと思います。

また会員参加型の場を作ってはどうか。

※ 承認

### 講演会・総会の様子



総会を終え、懇親会で近況を語り合う



懇親会を終えて



## 柴田 三奈子さん講演要旨



### プロフィール

株式会社 ラピオン代表取締役

事業内容 訪問看護事業

居宅看護事業

通所介護支援事業

### 経歴

- ・ 山口県出身
- ・ 看護学校卒業後東京で12年間病院勤務
- ・ 訪問看護に携わり、訪問看護認定看護師を取得後、起業を決意
- ・ 2009年 株式会社ラピオン、山の上ナースステーション設立
- ・ その後森のホリハビリステーション、サポートハウス山の上などを設立
- ・ 現在経営、運営に携わりながら大学院へ通学中

医療・介護が出来る賃貸住宅を経営しています。

山口県出身で、看護学校も山口県。上京後東京女子医大などに勤務し、最後に勤めた病院で末期の膵臓がんの患者さんに接しました。まだ訪問看護システムがなかった頃です。

その方のご主人から手紙を頂きました。「帰宅してよかった、住み慣れた家で過ごすことがよかった。最後の会話が夫婦でできてよかった。今後もこのような支援が出来るナースになるように」とありました。

それがきっかけで訪問看護の道へ歩みました。

はじめは訪問看護ステーションだけでしたが、訪問看護だけでは支えきれないということがわかり、24時間支援できる場所が必要、ということで今のサポートハウスにたどり着きました。

生涯勉強が必要と思い、大学院に通っています。

私は現在48歳ですが、39歳でがんになりました。リンパ節転移もありましたが乗り越えてきました。この経験が仕事に役立っています。患者さんの困っていることがわかる、その思いを持って運営しています。

訪問看護ステーションは土日が休みだったり、24時間支援というところが難しい。365日稼働できるステーションを作ろう、という思いでたちあげました。医療が必要な人、末期の方々が何とかならないかという思いでたちあげました。

### 現在の運営について

365日の訪問体制、24時間の緊急対応をコンセプトにする。

現在看護師20名、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士などのコメディカルを含め30名。

利用者300名、看取りは年60名～80名くらいです。在宅での看取りも支援しています。

これ以上は無理、家族の破綻を見て自宅での継続が出来ない、訪問看護だけでは支えきれないという現実を見て24時間の支援を作っていきたい。

がん末期の訪問依頼、脳疾患、独居の人が多い。

サポートハウスは家族のサポート、緊急時の入院受け入れ、退院直後の不安などに対応しています。

がんに特化しているわけではありません。

緊急事対応のため、常に一床は空けています。

## 3つの機能について

- ① 看取り支援(ホスピス機能)
- ② 医療的ケアが必要な方のショートステイ、地域の施設が受け入れ困難な人のサポート
- ③ 在宅移行支援(トイレや入浴の支援をして在宅を可能にする。)

## 入居要件

- ① がん末期
- ② 医療依存度が高く、他で入居を断られている方(地域で対応できる方はその施設へ)
- ③ 在宅復帰を目指す方
- ④ 緊急性があり他の施設で対応が困難な人

## 施設について

施設は元高齢者住宅だったところを借りています。約7畳の部屋に台所が付いています。無届の介護ハウスについては都がだめだといっています。共同の風呂、個室ではない、賃貸契約を結んではない、つまり「家」ではなく、施設として運営しているのはだめということです。入居者とは1週間でも賃貸契約を結んでいます。したがって在宅としてみなされています。サービスとしては訪問介護、訪問看護の人たちが入っています。

在宅サービスのプランを立て、訪問看護や福祉用具の利用も可能となります。夜間の見守りは自費サービスで契約しています。運営方法については今後も気をつけていきたい。

## 課題

- ・ヘルパーが看取りになれていない、質の確保が難しい。
- ・吸引・経管栄養のヘルパー対応に時間がかかる。
- ・看護・介護の協働
- ・採算の確保  
制度に縛られず自由に出来るが、収支が悪化すれば継続できない。

## 事例

- ・50代女性  
民間療法を希望し、職場の仲間が遊びに来られる場所、ということで入居。  
最期の一ヶ月は父親が泊まり、ともに過ごす。
- ・80代男性  
問題行動多く受け入れ機関がない。(病院で抑制される)  
自由に過ごしてもらい、穏やかに過ごされている。  
妻が毎日訪問、時々外出。

## 小規模多機能型居宅介護とは

介護が必要となった高齢者が、住み慣れた家・地域での生活を継続することができるように、利用者の状態や必要に応じて、「通い」を中心に「泊まり」「訪問」の3サービスを組み合わせて提供する在宅介護サービスです。

(要支援・要介護)

## 複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)とは

複合型サービスは、利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の選択に応じて、施設への「通い」を中心として、短期間の「宿泊」や利用者の自宅への「訪問(介護)」に加えて、看護師などによる「訪問(看護)」も組み合わせることで、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、介護と看護の一体的なサービスの提供を受けることができます。

(要介護のみ)

## ・50代男性

残された時間を妻と一緒に過ごしたい。妻はここから通勤している。友人たちと自由に会いたい。  
家財道具一式を持ち込み、普通の夫婦の生活と変わりなく過ごしている。  
今朝亡くされました。

## 会場からの質問

## ・小規模多機能型や複合型は？

サポートハウスと複合型をあわせた運営の仕方が出来ないかと考えている。

## ・行政の助成は？

ありません。低料金で入れるところを作らなければならないが、サ高住（サービス付高齢者住宅）も高いです。空きアパートなどを利用してやっていければと思います。なかなか採算は取れません。

## ・認知症のがん患者は

小規模多機能、グループホームをすすめる。どうしてもの場合は受け入れる。

## ・高齢者で身寄りのない人への対応

持ち物、自宅は業者に頼む。死後のため後見人をつけてもらう。

## ・緩和ケアを受けるため空き家を利用するという話がありますか。

宮崎県のシェアハウス「かあさんの家」が有名。  
無届介護ハウスには規制がかかっている。規制されていくか、多くなっていくかは今後の課題。  
制度に乗っていれば色々あって良い。

## ・利用者の居住範囲は

訪問看護、サポートハウスは日野市限定。  
介護保険の財源に影響するため。  
他市からの利用は住所が元の住所なら利用の可能性あり。

## 宮崎かあさんの家

「宮崎にホスピスではなく宮崎をホスピスに」を合言葉に県内4ヶ所で運営

『かあさんの家』は、安心のケア付きの自宅ではないもう一つの家です。  
住み慣れた地域、家にできるだけ近い環境で過ごしてもらいたいという思いで立ち上げたケアハウスです。

現在、看護職・介護福祉士などの専門職が24時間常駐し、ボランティアや地域の方々の支援を受けて運営されています。」

外観



居室





## 府中がんケアを考える会 実施講座(2001年1月～2014年12月・敬称略)

	日付	テーマ	講師	
1	01/10/28	がんと向き合ったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
2	02/02/17	ホスピスの体験から	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
3	02/04/28	在宅ホスピスについて	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
4	02/07/14	緩和ケアで使われる薬について	薬剤師(元ピースハウス病院職員)	玉井 照枝
5	02/10/11	朝日タウンズ特別講演会「日野原先生」		
6	02/11/24	心と体の痛みを癒すには	くらしき作陽大学教授	篠田 知璋
7	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院・院長	平林 竹一
8	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピス研究所所長	山崎 章郎
9	03/08/03	ヨーロッパのホスピス事情	府中ホスピスを考える会・副会長	市村 晴子
10	03/10/26	家で最期を迎えるために ー在宅ホスピスケアの実態	ホームケアクリニック川越院長	川越 厚
11	04/04/18	家族の立場からホスピスケアを見る	府中ホスピスを考える会・会員	駒ヶ嶺 泰秀
12	04/09/10	輝いて生きるー人生の後半をー	聖路加国際病院・名誉理事長	日野原 重明
13	04/11/07	コミュニティで考えるこれからのホスピスケア	聖ヨハネホスピスケア研究所・研究員	長谷 方人
14	05/06/05	夫をがんで見送ってー入院治療3か月後の不安	府中ホスピスを考える会・会員	森山 レイ子
15	05/09/24	地域で生きるー尊厳ある生と死をもとめて	聖ヨハネホスピスケア研究所・所長	山崎 章郎他
16	05/10/30	命と響き合う絵本	ノンフィクション作家	柳田 邦男
17	05/11/26	更年期障害と子宮がん	東府中病院・院長	十蔵寺 新
18	06/03/26	人間のいのちと死ー終末期医療から見る	医療法人恵風会施設長・医学博士	渡邊 寛宣
19	06/05/21	千倉市「花の谷」(ホスピス)の紹介	府中ホスピスを考える会・副会長	市村 晴子
20	06/08/20	NHKビデオによるホスピスに関するQ&A	府中ホスピスを考える会・副会長	市村 晴子
21	06/09/09	永六輔 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピス研究所共催	
22	06/11/11	ときめく「命(いのち)」をいきる	青山学院大学講師	野村 祐之
23	07/04/01	さいごまで生きる施設ーホスピスーでのとき	ライフプランニングセンター所長	平野 真澄
24	07/06/24	「いのち輝かせて生きる」ーこどもから老人まで	聖路加国際病院・名誉理事長	日野原 重明
25	07/10/13	鎌田実 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピス研究所共催	
26	08/01/20	地域におけるホスピスケア ー患者と家族の心を支えるー	医療法人社団イバラキ会	高野 和也
27	08/05/25	ホスピスケアにおける訪問看護の役割	府中医王訪問看護ステーション 地域看護専門看護師	宮田 乃有
28	08/08/03	阿伎留医療センター緩和ケアセンターの現状	公立阿伎留医療センター緩和ケア科・医師	戸沢 育文
29	09/01/25	ビデオによるホスピス緩和ケアの歩み	府中ホスピスを考える会・副会長	市村 晴子
30	09/05/17	府中市における訪問看護ステーションの現状	府中市医師会訪問看護ステーション・所長	芝尾 幾世
31	09/11/15	ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて	ボランティアまつりパネルディスカッション	会役員
32	10/05/02	府中でも実現したい 地域で家庭でホスピス・緩和ケアを	ケアタウン小平クリニック・院長 聖路加国際病院・名誉理事長	山崎 章郎 日野原 重明
33	10/08/22	在宅緩和ケア「いつでも・・・緩和ケア」のために	ピースクリニック中井・院長	永山 淳
34	10/11/28	府中で「ホスピス」を実現したい	府中NPO・ボランティアまつり	会役員
35	11/05/22	ターミナルケアの現状と問題点	ながた内科クリニック・院長	永田 宏
36	11/10/02	家族の立場から在宅ホスピスケアを考える	在宅看護利用者/府中医王訪問看護ステーション 地域看護専門看護師	荻野和子 宮田乃有
37	12/05/27	在宅医療ー終末期緩和ケアについて	せいわクリニック・院長 拓鍼灸院・院長	朴 正一 長友 拓也
38	13/10/12	誰でもよくわかるやさしく学ぶ緩和ケア入門	在宅医療・緩和ケアカンファレンス NPO法人臨床支援協議会	
39	13/12/01	日野原先生講演会	新老人の会と共催	日野原 重明
40	14/05/18	地域医療を担う家庭としての緩和医療の現状	武蔵国分寺公園クリニック	名郷 直樹
41	14/11/16	在宅医療を受けたいとき	寿町クリニック・医療相談員	井上 敬介

